

みる かたる つくる

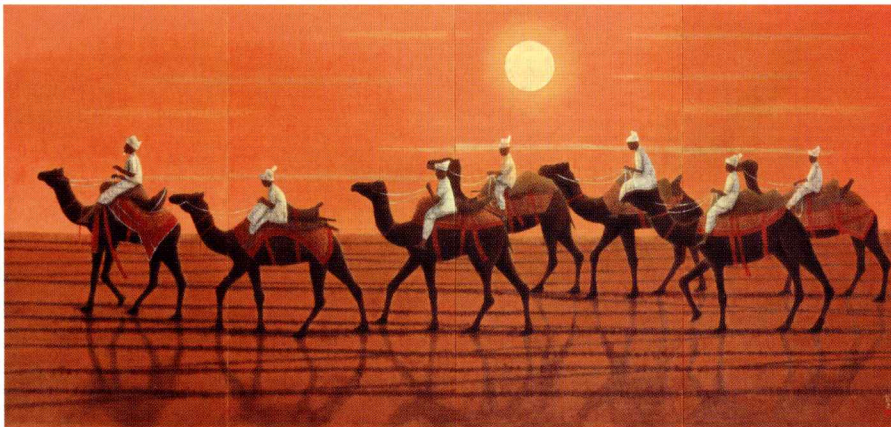
2014 VOL.41
(通巻103号)



ART NEWS
千葉県立美術館報

開館40周年記念特別企画展

平山郁夫展 —仏教伝来の軌跡、そして平和の祈り—



平山郁夫《シルクロードを行く東・太陽》2005年 平山郁夫シルクロード美術館蔵

開催概要

会 期

平成27年1月24日(土)～
3月22日(日) 50日間

開館時間

午前9時～午後4時30分

休 館 日

月曜日

入 場 料

大人800円(640円)
高校・大学生400円(320円)
中学生以下・65歳以上は無料、
()は20名以上の団体料金

開館40周年を迎えて

館長 安藤 三之

当 館は、昭和49年（1974）に開館しましたので、今年で40周年を迎えることができました。

建物も歳月を経ると、人間の体と同じで、いろいろな所にほころびが出てきます。

その都度、修繕等を行ってきましたが、平成18年度に実施した耐震診断では、耐震強度不足が指摘されてしまいました。

このままでは、来館者の安全を確保することができないことから、平成25年1月から2年間休館して、耐震工事を実施することとしました。

工事や開館準備は順調に進み、平成27年1月24日に再開館いたします。

再開館と開館40周年を記念して催す特別企画展は、『平山郁夫展—仏教伝来の軌跡、そして平和の祈り—』です。

本展覧会では、平山郁夫が生涯のテーマとした仏教伝来と、作品に込めた平和への祈りについて、本画や素描など約90点を展示し、平山郁夫の芸術の軌跡とその旅路を紹介します。

また、会期中には、開館以来の変遷を紹介する「40年の歩み展」、アートコレクション展として「千葉県立美術館名品展」、「彫刻展」など、展示室をすべて使用して展覧会を開催します。

平成23年度実施した「山下清展」では、6万2千人余の入場者をお迎えすることができましたが、これを目標に職員一同頑張っておりますので、ぜひご来場ください。

今後も、「みる・かたる・つくる」という理念のもと、県立唯一の美術館として県内全体の美術活動の振興に、これまで以上に取り組む必要があります。

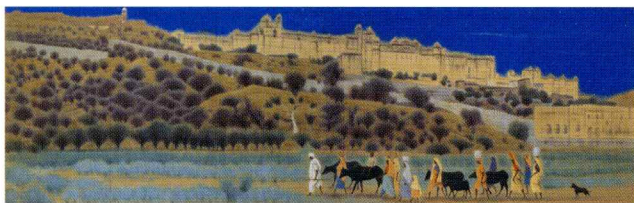
また、周辺の急激な人口増加に加え、ポートパークの整備や棧橋の建設など、港を核とした町づくりが、進められたことに注目しなければなりません。

今後は、地域との連携をこれまで以上に密にし、地域の方々に愛され、港を利用する観光客に足を運んでいただける、魅力ある美術館を目指す必要性を強く感じています。

最後に、40年にわたりご協力を賜りました皆様に感謝申し上げますとともに、これからもご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平山郁夫展 —仏教伝来の軌跡、そして平和の祈り—

平成27年1月24日(土)～3月22日(日)



平山郁夫《故城下村民帰牧図》2002年 佐川美術館蔵

今年度の特別企画展は千葉県立美術館の開館40周年を記念して、日本画家・平山郁夫（1930－2009）の「平山郁夫展—仏教伝来の軌跡、そして平和の祈り—」を開催します。

広島県に生まれた平山は、中学時代の被爆体験に基づき、仏教への強い関心と平和への祈りを込めた作品を数多く制作しました。仏教伝来を生涯のテーマに玄奘三蔵の求法の軌跡を辿り、シルクロード各地を取材しました。遺跡や自然を実際に見なければ、その土地の歴史や古の人々の生活を感じ取ることはできないと150回以上の取材旅行を重ねる徹底した現場主義を貫き通しました。

本展では、滋賀県の佐川美術館所蔵の作品を中心に、玄奘三蔵の苦闘の旅路を描いた『大唐西域画』、ボスニア・

ヘルツェゴビナの民族紛争後荒廃した街に生きる子供たちに未来への希望を託した『平和への祈り—サラエボ戦跡』などを展示します。仏教の源流であるインドやシルクロードの東の出発点であり玄奘三蔵が生まれた中国、シルクロードの終着点として仏教文化を独自の文化へと発展させた日本の風景を描いた作品など、本画、素描合わせて93点を展示し、平山郁夫の芸術の軌跡と旅路を紹介します。

関連事業の御案内

記念対談 平成27年3月7日(土) 「平山郁夫とともに」

平山郁夫夫人美知子氏と長年取材旅行に同行した小川貞夫氏が平山郁夫について語ります。

時 間 開場13:00 開演13:30 会 場 講堂
講 師 平山美知子（平山郁夫シルクロード美術館館長）
小川貞夫（弥生画廊相談役）

その他 応募方法：往復ハガキによる申込。締切：2月21日(土)必着。
定員を超えた場合は抽選。参加無料

オープニングミュージアムコンサート 平成27年1月24日(土)

演 奏 ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉

高校生による新春コンサート 平成27年1月25日(日)

演 奏 県立千葉女子高等学校オーケストラ部

ミュージアムコンサート 平成27年2月7日(土)

演 奏 ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉

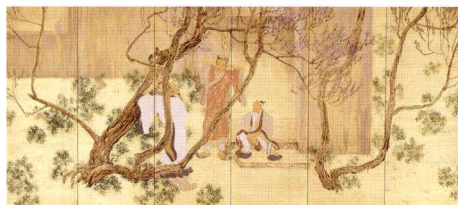
ワークショップ「はじめての日本画体験」 平成27年2月15日(日)

講 師 鷹濱春奈(東京藝術大学大学院博士課程)

※各コンサート、ワークショップの申し込み方法は県立美術館ホームページ等をご確認ください。

アート・コレクション

千葉県立美術館名品展



石井林響《桃源》1913年

当館は開館以来、「房総と近代美術」を基本テーマに、千葉県ゆかりの、あるいは近代美術史上重要な足跡を残した美術家の作品収集につとめ、その概要を収蔵品による展示活動で紹介してまいりました。

開館した昭和49年度の末に、134点だったコレクションは、貴重な作品をご寄贈くださった方々はじめ、収集にご協力を賜った関係各位のご好意などに支えられ、40年間の成果として、現在2400点余まで成長しました。

この展覧会では収蔵作品の中から、石井林響、東山魁夷（日本画）、浅井忠、ルノワール（洋画）、高村光太郎（彫刻）、香取秀真、津田信夫（工芸）、浅見喜舟（書）、浜口陽三（版画）など、日頃から特に観賞の要望の高い美術家の作品を選んで紹介します。

千葉県立美術館40年の歩み



開館記念式典の様子

会期

平成27年
1月24日(土)

▼
3月29日(日)

会期

平成27年
1月24日(土)

▼
4月4日(土)

「公立美術館を千葉に」という、千葉県美術会や多くの県民の皆様の永年の念願が叶ってから、千葉県立美術館は今年で40年目を迎えます。昭和49年10月の開館以来、「みる・かたる・つくる」美術活動をモットーに、多くの皆様に支えられて、企画展や普及事業の充実した活動を展開してきました。

このパネル展では、40年に及ぶ美術館の歩みを年表形式で辿るほか、展示棟などの建設工事や開館当初の貴重な写真や資料をはじめ、次第に発展し多様化していく美術館活動の様子、近年の東日本大震災の被災地復興支援に取り組む多彩な活動なども、あわせて紹介します。これまでの歩みを振り返るとともに、未来に向かって新たに歩み出した千葉県立美術館のこれからの姿について、皆様と共に考える機会にしたいと思います。

耐震補強工事を終えて



当館は、建築後30年以上が経過し、耐震強度不足や建物及び設備類の経年による性能劣化、施設機能と社会的ニーズの不一致などが見られることから、施設の長寿命化と利用者サービスの向上を実現するため、耐震化、内外装改修、設備改修機器更新などの施設改修工事を約2年間の工期で実施しました。設備機器の更新では、時代のニーズである省エネルギー化やフリーメンテナンスを行い、維持管理費、光熱費の削減を図りました。

耐震補強としては、既存屋

根の仕上げを天然スレート3枚葺きから金属板葺きに改修するなど、屋根全体の荷重を約25%の軽減を図りました。さらに、屋根面に新設の繋ぎ材の設置と地下階の吹抜け部に壁増設補強及び柱鋼板巻き補強を施すことで、建物全体の耐震性向上を実現させました。天然スレートから金属板葺きに改修するに当たっては、二部残った天然スレート屋根とうまく調和させました。

展示室は、壁面の色を白で統一し、床は濃いグレーを基調として美術品の鑑賞に影響を与えない明るく落ち着いた展示空間としました。また、全面的に天窓を塞ぐことで自然光の取入れを無くし、全て人工照明による方式としました。

展示室の照明計画は、オリジナルデザインを継承し、照明器具は天井配置、ブラケット器具配置を生かしたLED照明、スポット照明用ライティングダクトに更新しました。従来より明るく、作品を鑑賞しやすい照明となっています。

各展示室の明るさの基準として

第1・2展示室…展示物250 lx、室内平均250 lx
第3～6展示室…展示物250 lx、室内平均75 lx
0 lx、室内平均250 lx

また、空調機械設備も一新し、快適に鑑賞をさせていただくとともに、収蔵庫内の作品の保存環境の向上も図りました。



耐震補強工事の様子

普及課の事業から

ボランティア活動



県民アトリエ研修室でのボランティア講習会(バーチャルミュージアム)

今年度は、再開館に向けて新たにスタッフを募集し、総勢34名で活動しています。便宜上、組織をワークショップ運営の補助を行うワークショップ・サポーターと、情報資

料室の管理・運営を補助する情報資料室ボランティアの二つに分けていますが、スタッフは所属に関係なく全ての活動に参加することができます。また、今年度はスタッフを対象とした研修を充実させました。ワークショップ・サポーター向けの実技研修は4回、情報資料室ボランティア向けの図書研修は2回、全体研修として、日本赤十字社と協働して実施している美術教育による復興支援活動「夢づくり隊」の実施報告会や、当館の学校向け学習支援キットの体験講習等を3回実施します。これは、当館のボランティア活動において、スタッフを「美術館のお手伝いさん」という捉え方ではなく、まずは「主体的な学習者」と捉え、自身の学習成果を他者との交流の中でさらに深められる場として機能することを意図しており、「県民主体の美術館」を象徴する存在になってほしいと思います。

情報資料室

昭和55年に県民アトリエ棟が竣工し、同年9月9日、情報資料室は開室しました。開室して34年になりますが、工事を機に配置や機能の見直しを図りました。ガラス張りのエントランス、吹き抜けの美しい空間では、展覧会を見るばかりではない、美術情報への親しみという学びの楽しみが味わえます。

美術情報発信の基地としてより充実した資料を提供し、県民にとって快適で利用しやすい情報資料室を目指して、室内の什器や資料の配置を変更しました。資料整理は、ボランティアと行きつ戻りつ検討を重ねながら進めて参ります。

なお、平成26年度は11月1日現在57冊の寄贈を受け、収蔵図書数は6,582冊、図録18,198冊となりました。

実技講座

本館の事業「みる・かたる・つくる」の"つくる"活動の一環として、県内作家を講師とし受講者の生涯学習の振興に寄与すること、美術鑑賞の眼を養うことを目的に、事業開始から今年で36年目を迎えます。



実技講座(陶芸基礎)

今年度も前年に引き続き耐震改修工事のため、陶芸(基礎5月～6月・応用11月～H27.3月)は千葉県立房総のむら、コラグラフ(版画)とシルバーアクセサリ(銀粘土細工)は9月～10月に千葉県青少年女性会館で開催しました。他施設を会場にすることで、各地域にお住まいの方々にも講座にご参加いただき、当館の活動をPRする良き機会を得ています。再開館後の平成27年2月には、改修後の第2アトリエで金工講座(7日コース)の開催を予定しています。より美しく、より安全に再生したアトリエ棟での講座にも御期待下さい。

ワークショップ

耐震補強等工事による休館のため、館外の県内各文化施設でワークショップを開催しました。普段当館に訪れることの少ない参加者に創作体験を提供し、美術を身近なものと感じてもらおう好機となりました。

本年度実施したワークショップは以下の通りです。5月17日「いろいろ作ろう、美術館の縁日だよ!」(さわやかちば県民プラザ)、6月21日「小さなアニメーションを作ろう!」(千葉市生涯学習センター)、8月16日

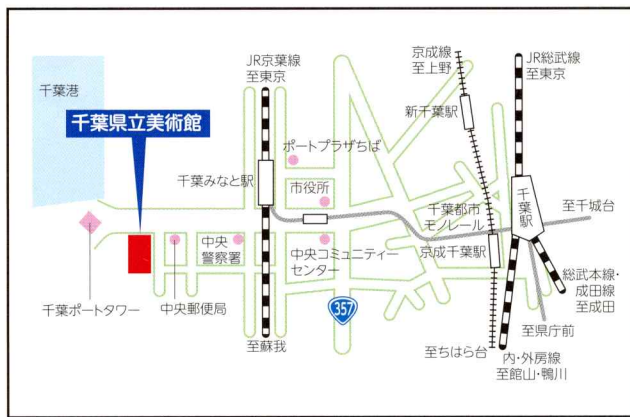
「立体万華鏡を作ろう!」(千葉ポートタワー)9月27日「オリジナルモノレールを作ろう!」(モノレール千葉駅)、11月29日「クリスマスオーナメントを作ろう!」(千葉ポートタワー)。

本年度より新しいメンバーを加え、ボランティアと一緒に運営する体制を充実させたのも特徴です。

「夢つくり隊」の活動

日本赤十字社千葉県支部等との協働により、東北の被災地を対象にして出張美術教室を行う「夢つくり隊」は、今年度は平成24年に第1回の「夢つくり隊」で訪れた岩手県釜石市を8月5日から8日にかけて再訪しました。ワークショップの内容は「100年後の釜石をつくろう!」というテーマで、「未来の釜石に残したいところと、変えていきたいところ」を参加者の子ども達を中心に話し合い、ボール紙製のビルダーカードと、廃段ボール等を材料にして、自分たちで想像した未来の釜石の街を実際に体育館の中に作り上げるというものでした。当日は東北地方とは思えないほどの酷暑だったのですが、参加した子ども達は元気一杯に街を作り上げ、その中で自分たちで考えた様々な遊びを繰り広げました。実施会場は釜石市立栗林小学校と同釜石小学校、参加者は2会場合わせて45名でした。

また、今回の「夢つくり隊」では、福祉を専門に学ぶ淑徳大学と教育について学んでいる千葉大学の学生ボランティアを、企画・準備段階から深く関わってもらうことにより、復興支援活動のノウハウを若い世代に引き継ぐことも大きな目標に加えて実施しました。ワークショップのテーマ設定の協議から、実際の運営まで、大学生が主体となって実施したことにより、復興支援を未来へと繋げる一助となれば幸いです。



交通 JR京葉線・千葉都市モノレール「千葉みなと」から徒歩10分
〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1 Tel.043-242-8311 Fax.043-241-7880
千葉県立美術館報「みる かたる つくる」VOL.41 (通巻103号)
2014年12月25日発行